
釣り名人のニンジン

伊織千景

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

釣り名人のニンジン

【Nコード】

N8232I

【作者名】

伊織千景

【あらすじ】

「ニンジン」、「釣り」、「マンホール」で、ひとつ話を書こう！といわれ、ひーひー言いながら作ったのがこの作品です。一発ネタですが、楽しんでいただけたら幸いです。

これは本当にどうしようもない話なんだ。話半分に聞いてくれるとありがたい。

さて、何から話そうか。

そうだ。これは、ある一人の少女の話であるものであることを言わないといけないな。

この少女は周りの人間とは少し違う、変わった女の子なんだ。どこが違うかというと、まず一番目立つのはその髪の色だな。

他の人たちがきれいなブロンド色の髪を優雅になびかせているのに対して、

その少女は燃えるような赤毛の縮れ毛なんだ。

そこで、その少女はこう言われてからかわれていたんだ。

「ニンジン」とね。

「釣り名人のニンジン」

さて、少女の名前はちょっと発音するのが難しい。

たいていの人は途中でかんでしまつてまともにその名前をいえないんだ。

そしてこの私も十回に一回くらいしかうまく発音することができない。

なので、彼女の名前を便宜上「ニンジン」と呼ぶことにする。

そんなニンジンには、ひとつの特技があった。

ニンジンは世界一の釣り人だったんだ。

ニンジンの手に掛かれれば、小さい魚はシラス、大きい魚はなんとカジキマグロを釣ることも不可能じゃなかった。

彼女の名前を知らない釣り人は世界中を探してもいないだろうね。

いたとしたらそいつはモグリだ。

そんなニンジンに、一つの話が持ちかけられたのは、ちょうど三日前だった。

ニンジンがいつも通り釣りをしていて、ある旅人がこういう話をしたのだ。

「やあ、あんたが噂の、釣れないモノはいないっていうニンジンさんかい？」

「そうだよ。あたしに釣れないモンなんてないのさ！」

ニンジン は胸を張ってそう答えた。彼女にはその発言を裏付ける確かな技術と経験と、実績があった。

旅人は二ヤつと笑って耳をそばだてた。

「それならさ……」

（はあ、全く。確かに何でも釣れるっていったけどさあ）

ニンジン は、ぼやきながら、釣り竿の先から垂れる、釣り糸をぼんやりと眺める。

彼女は今、ある場所で釣りをしている。

が、そこは海でも川でもない。ましてや釣り堀でもない。

そこはまるで地球の真ん中まで届きそうな、大きな穴だった。

通称「マン・ホール」

まるで巨人がその大きな口を開けているように見えることからその名前が付けられた。

ニンジン は今、そのマン・ホールに釣り糸を垂らしている。全く。

釣れるわけないじゃん。

「地球」なんて。

はい。お粗末さまでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8232i/>

釣り名人のニンジン

2010年10月15日21時36分発行